

	<h2>49. 測候章</h2>	★ 考査員認定	
---	------------------	---------	--

考査細目	考査方法	考査のポイント
(1) 次の計測器の構造と用法を知ること。 ア 風向計 イ 温度計 ウ 気圧計 エ 風力計 オ 雨量計	口述または記述	・ 必要に応じ、それぞれの計器を図示させる。 ・ 設置場所を説明させる。
(2) 雷、及び避雷の方法について説明できること。	口述	・ 野外で避雷の重要性を認識していること。
(3) 少なくとも1か月以上、毎日同時刻に気温、湿度、雲向、雲量の観測を実施し、その記録を作ること。	報告書（観察記録）の提出	・ 学校等で使用している記録用紙を標準とする。
(4) 自然現象や生物の行動の様子を観察して行う天候の予測法（観天望気）を3種以上知ること。	報告書（観察記録）の提出	・ 雲以外の例は伝聞である。
(5) 風力の階級を知り、実際に判定すること。	口述または記述	—
(6) 気温、飽和水蒸気圧と気候の関係、及び高気圧、低気圧、各種前線について知ること。	口述または記述	・ 日本の四季の特徴を理解していること。
(7) 天気図を判読できること。また、自分で天気図を書き、簡単な説明ができること。	記述（天気図）実演（解読）	・ 実演には、当日の天気図を活用するのもよい。
(8) 天気予報が出されるまでの作業課程の概要を説明し得ること。台風、梅雨、霜、雷の発生原因と時期について知ること。	記述	・ (6)～(8)を通して、キャンプ中の気象予報をさせるとよい。